

神秘学ポエジー 風遊戯  
photopos  
141

【神秘学ポエジー～風遊戯 第 282集】 photo ヴァージョン

photopos 3501-3525

《2024.4.9～ 2024.5.3》

神秘学遊戯団

この世は  
好きと嫌いで  
できている

好きなものは  
好き  
嫌いなものは  
嫌い

でもなぜ  
好きなのだろう  
なぜ  
嫌いのだろう

好きは  
どこからきたのか  
嫌いは  
どこからきたのか

好きを  
ずうっと  
さかのぼることは  
できるだろうか

嫌いを  
ずうっと  
さかのぼることは  
できるだろうか

さかのぼった  
いちばんおしまいところで  
好きと嫌いが  
ふたつに分かれてゆく

その境には  
いったいなにがあるだろう



\*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

病いになるのも  
癒やされるのも  
それには理由がある

病いとは  
生きて学ぶための  
困難な物語である

いかに生きるか  
わたしには  
わたしの物語があるが

その物語が  
世間の声で  
そして  
わたしの内にある  
世間の声で  
書き換えられようとするとき

それが  
気となって  
身心の病いを生む

病いを  
癒やすためには

その気から解放され  
じぶんの物語を  
取りもどさなければならないが

わたしたちは  
困難な迷路をあえて歩み  
病いとなり  
癒やされもし  
やがて死を迎える

メメント・モリ  
だが  
それで生は完結しない

完結しない物語の迷路を  
繰り返し歩みながら  
わたしの物語は紡がれてゆく



\*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

全ては  
常に今

時は  
流れず

刹那に生まれ  
刹那に滅し

非連続により  
連続し

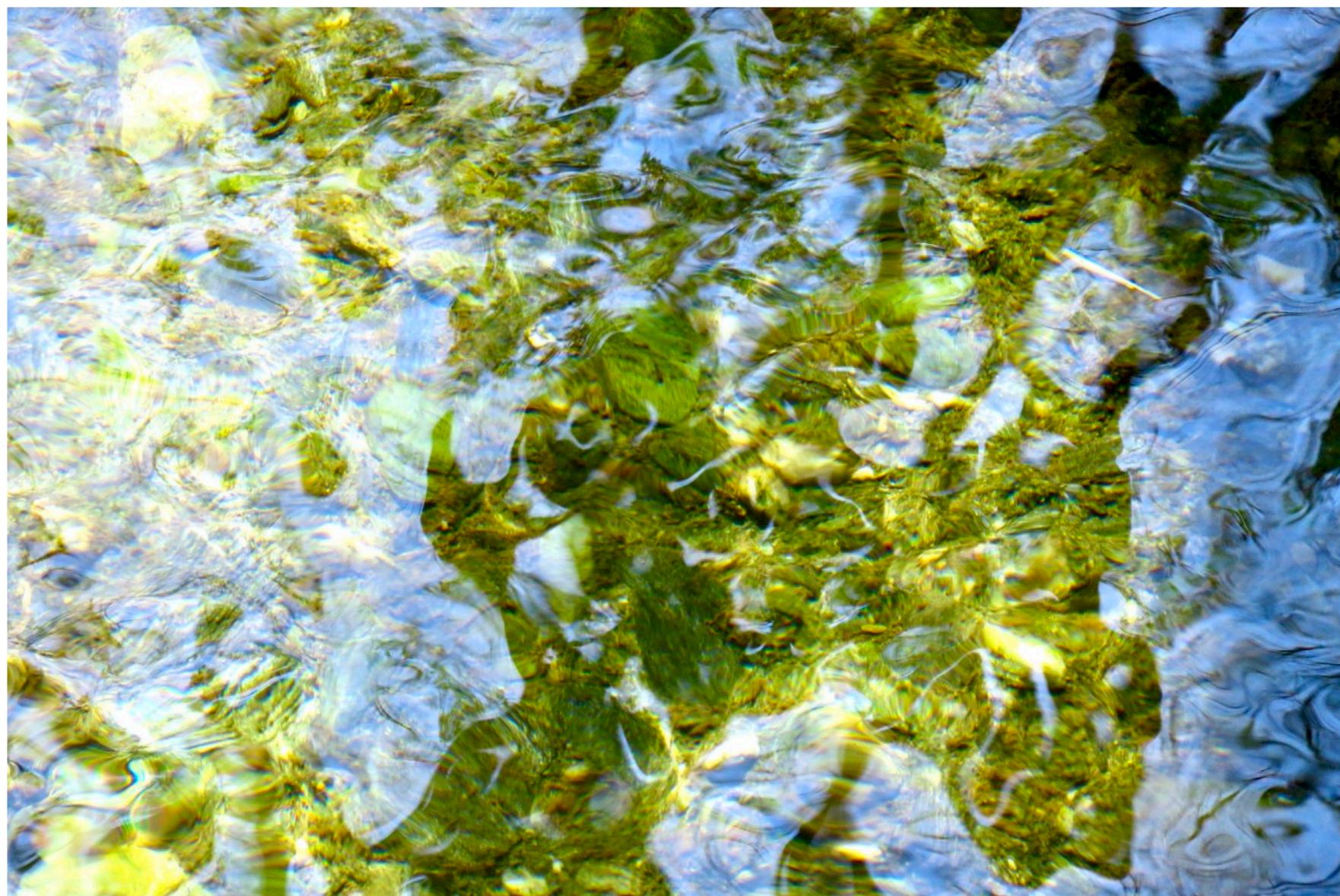
無により  
有となり

我により  
時ありて

握れば一点となり  
開けば無限となり

全ての時は  
刻々と新しく

全ての存在は  
刻々と新しい



\*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

老子曰く  
知っていても  
知らないと思うのがいい

けれど  
馬鹿といわれたときには  
じぶんはそうかもしれない  
そう思ったほうがいい

馬鹿ではない  
と思いきものは  
じぶんは知っている  
と思いきんでいることだからだ

無知を恐れないとき  
はじめて  
無知の知への道がひらかれる

馬鹿といわれることを  
恐れなくなることは  
死を恐れないことと通じている

死を恐れないとき  
はじめて  
不死への道もひらかれるからだ



\*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

善いのか  
悪いのか

綺麗なのか  
汚いのか

正しいのか  
誤っているのか

信じるのか  
疑うのか

味方なのか  
敵なのか

わたしなのか  
あなたなのか

ことばは  
世界を  
ふたつに  
わけようとする

けれど  
わけているのは  
ことばだろうか  
それとも  
こころだろうか

ふたつの  
あいだで  
どちらにもならず  
じっと見ている  
だれかがいる

謎のように  
あらわれている  
世界のなかで



\*愛媛県久万高原町・面河溪にて

ひとは  
こころと  
からだに  
わけられて

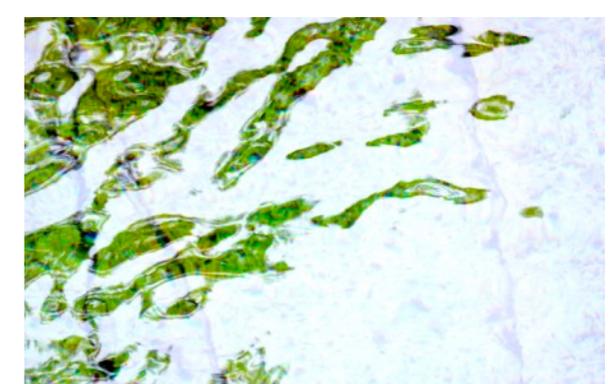
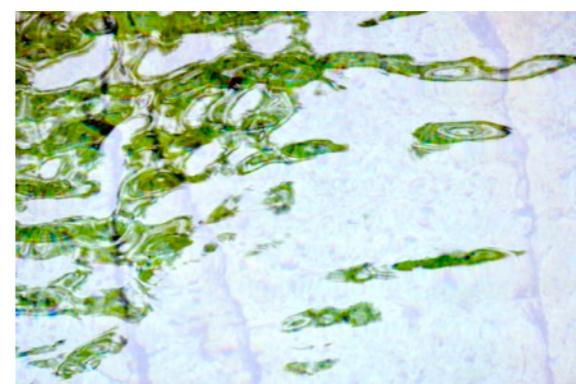
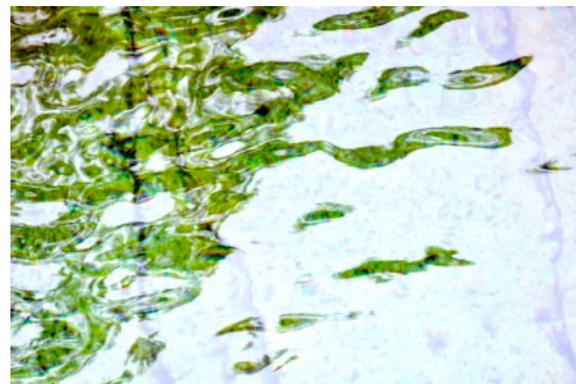
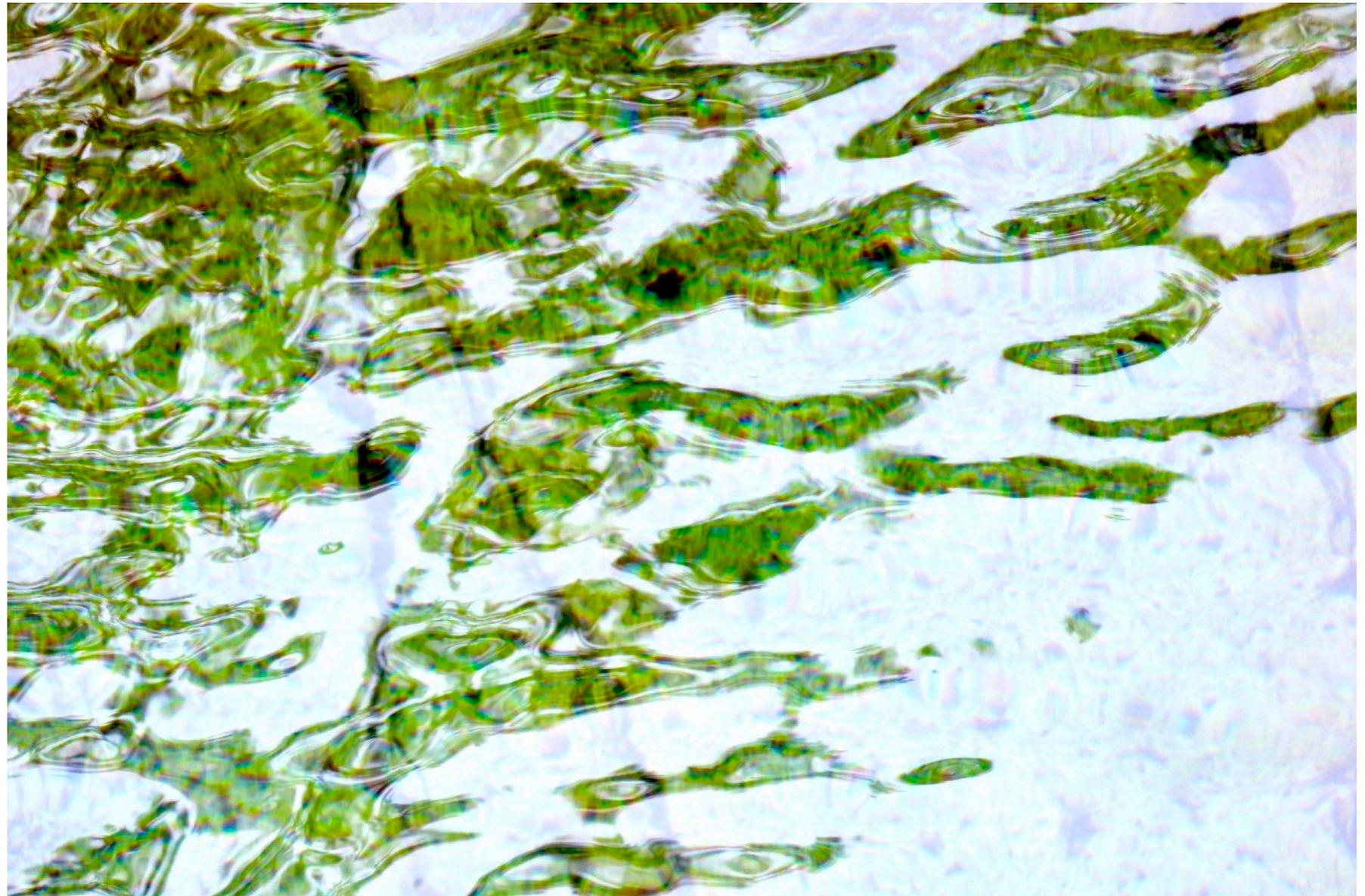
さらに  
こころも  
からだも  
もっとわけられ  
ますます  
わからなくなっていくばかり

こころとからだか  
ほんとうは  
ひとつであったことを  
おもいだせますように

わかるために  
わけられていくなかで

わけられたものたちが  
ほんとうは  
ひとつであったことを  
おもいだせるだろうか

わけられながら  
わかりあうことができますように



言葉に  
責任をもつ  
ということは

なぜその言葉を使ったのか  
そう問われたとき  
それに答えるということだ

その言葉が  
わからないときには  
わからないといい

なんどでも  
聞きかえすことができる  
ということだ

聞きかえされることで  
それまでわからずにいたことが  
見つかることもある

言葉に責任を  
とりたくない者は

答えないままでいるか  
わざとわかりにくい言葉を使って  
問いを拒んだりする

答えないとき  
それは食べるに値しない言葉であり  
わかりにくい言葉  
それは食べられない言葉である

滋養深く美味しく食べられるとき  
料理は喜びをもたらす

珍しいものだけが  
食べるに値する言葉ではない  
いつも食べているものこそ  
たいせつな生きる糧となる



\*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

偶然が  
満を持して  
訪れるように

時は  
魔法のように  
機を待ち  
訪れる

時は  
測れず  
時は  
流れず  
時は  
生きられる

機を  
とらえるために  
待ち続ける  
生もあり

待つことのなかで  
永遠が  
生きられもする

そして  
やがて偶然が  
訪れたとき  
その生は  
成就することになる



\*愛媛県久万高原町・面河溪にて

神は遊び  
世界をつくり

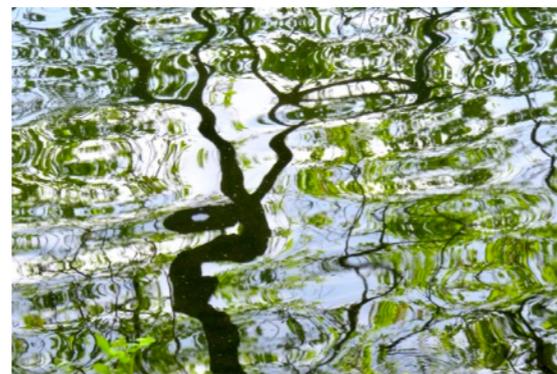
世界のなかで  
神もまた遊ぶ

ならば  
ひともまた  
遊びをせんとや  
生まれけん

世界があること  
それそのものが  
遊びならば

ひとがいること  
それそのものもまた  
遊ぶためにこそだろう

では  
遊びなき世界をつくり  
遊びなく生きてしまうのはどうだろう  
それも遊びのひとつのかたちだろうか



\*愛媛県総合運動公園にて

あそぶ  
ために  
あそぶ

こどもが  
ただ  
あそぶ  
ために  
あそぶように

なんのため  
でもなく  
だれかのため  
でもなく

あそびたいから  
あそぶ

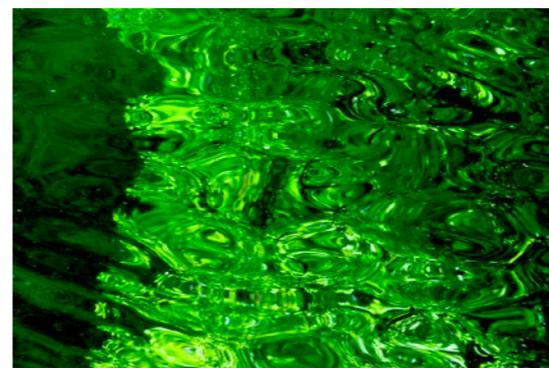
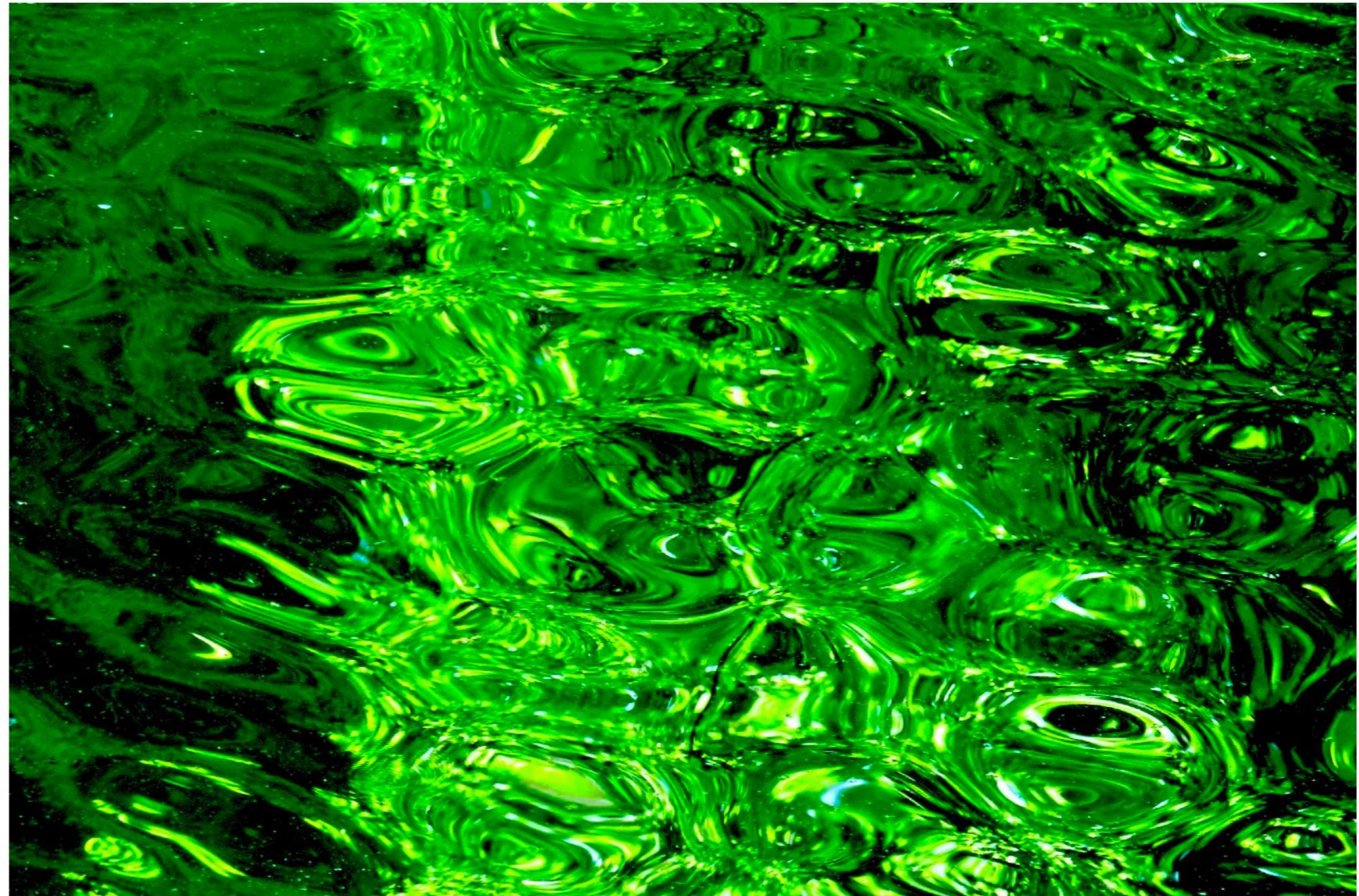
ただ  
あそぶ  
ために  
あそぶとき

あそびは  
かみさまの  
あそびになる

それなのに  
おとなは  
ただあそぶためには  
あそべなくなる

かみさまはもう  
そこにはいない

いるのは  
あそぶことで  
なにかをしようとする  
だてんしのような  
わたしだ



\*愛媛県総合運動公園にて

見ようとすれば  
するほどに  
見えなくなり

さわろうとすれば  
するほどに  
さわれなくなり

持とうとすれば  
するほどに  
持てなくなり

分かるうとすれば  
するほどに  
分からなくなる

そんな矛盾に気づき  
疲れ果てたとき  
現れるのは

天使のような  
悪魔の誘惑か  
悪魔のような  
天使の喝か

境域の門の前で  
迷宮の如く  
問いは繰り返され  
やがてそこから道は現れる



\*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

わたしは  
わたし  
でいることができず

いまは  
いま  
であることができず

ここは  
ここ  
であることができず

わたしではない  
だれか  
として

いまではない  
いつか  
として

ここではない  
どこか  
として

いきている  
のか  
いきて  
いないのか

わたしは  
いま  
どこに  
いる



\*愛媛県総合運動公園にて

宇宙は  
マクロのコスモスと  
ミクロのコスモスが  
照らし  
照らされることで  
変容していく  
時空を超えた有機体である

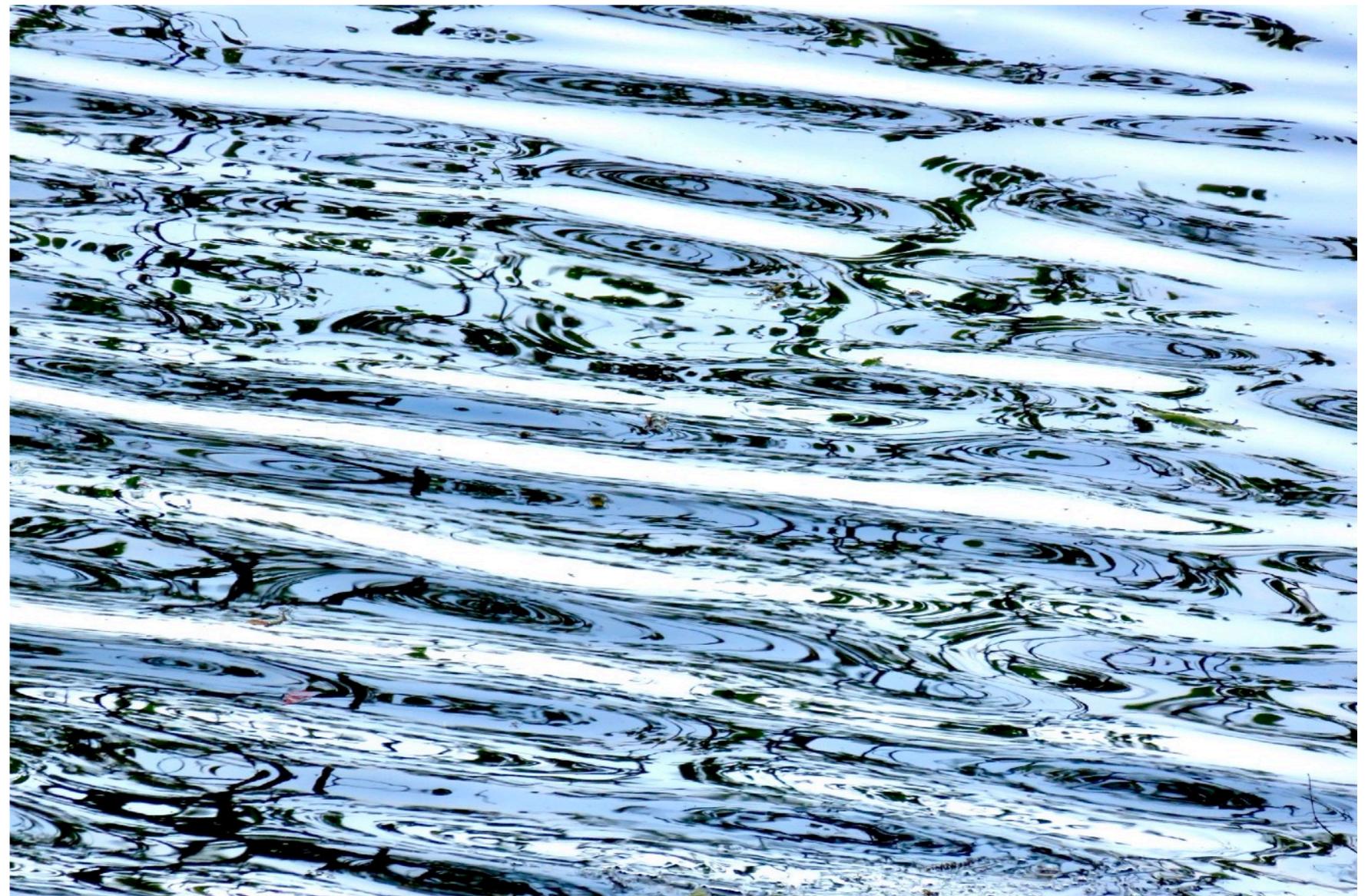
自由とは  
ささやかだが  
かけがえのない  
ミクロコスモスの恩恵である

マクロコスモスは  
ミクロコスモスを照らす  
照らし返すのは  
ミクロコスモスの自由に委ねられる  
からだ

自由は  
自由であるがゆえに  
新たなものを生みだしながら  
危険な破壊兵器ともなるけれど...

そうして  
神々は  
ひとを照らし  
ひとは  
神々へと  
照らし返し  
変容していく

一なるものは  
一なるもののなかで  
そんな夢を見ているのだろうか



\*愛媛県総合運動公園にて

☆photopos-3514 2024.4.22

わたしは  
あいだで  
できている

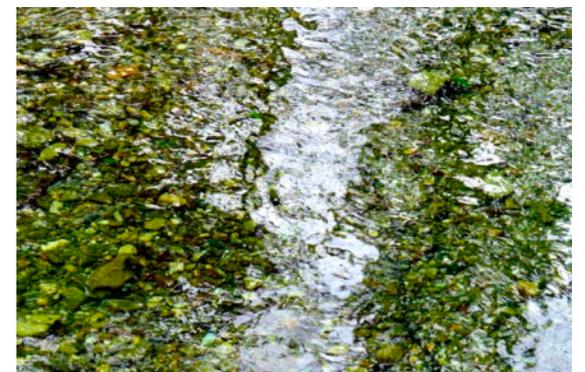
わたしは  
いつのまにか  
わたしを映す  
鏡のあいだから  
あらわれる

ひとりでいても  
深みにいるふたりの  
あいだで  
歌を交わしながら

こころとからだ  
生と死の  
あいだをめぐり

天と地  
彼岸と此岸  
刹那と刹那  
有限と無限の  
あいだを遊ぶ

わたしは  
あいだという  
永遠の旅人である



\*愛媛県久万高原町・面河溪にて

忘れなければ  
得ることのできない  
あらたな恵みがある

器を空にしなれば  
そこにはなにも  
注ぎこむことができないように

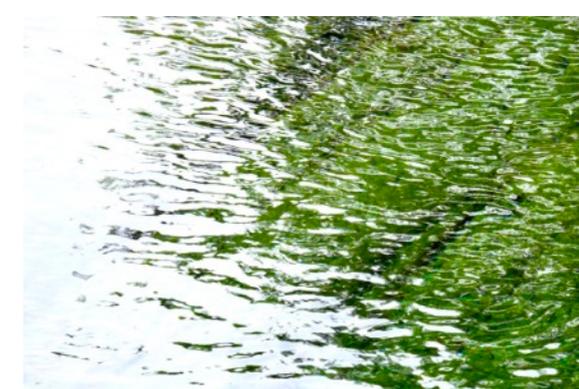
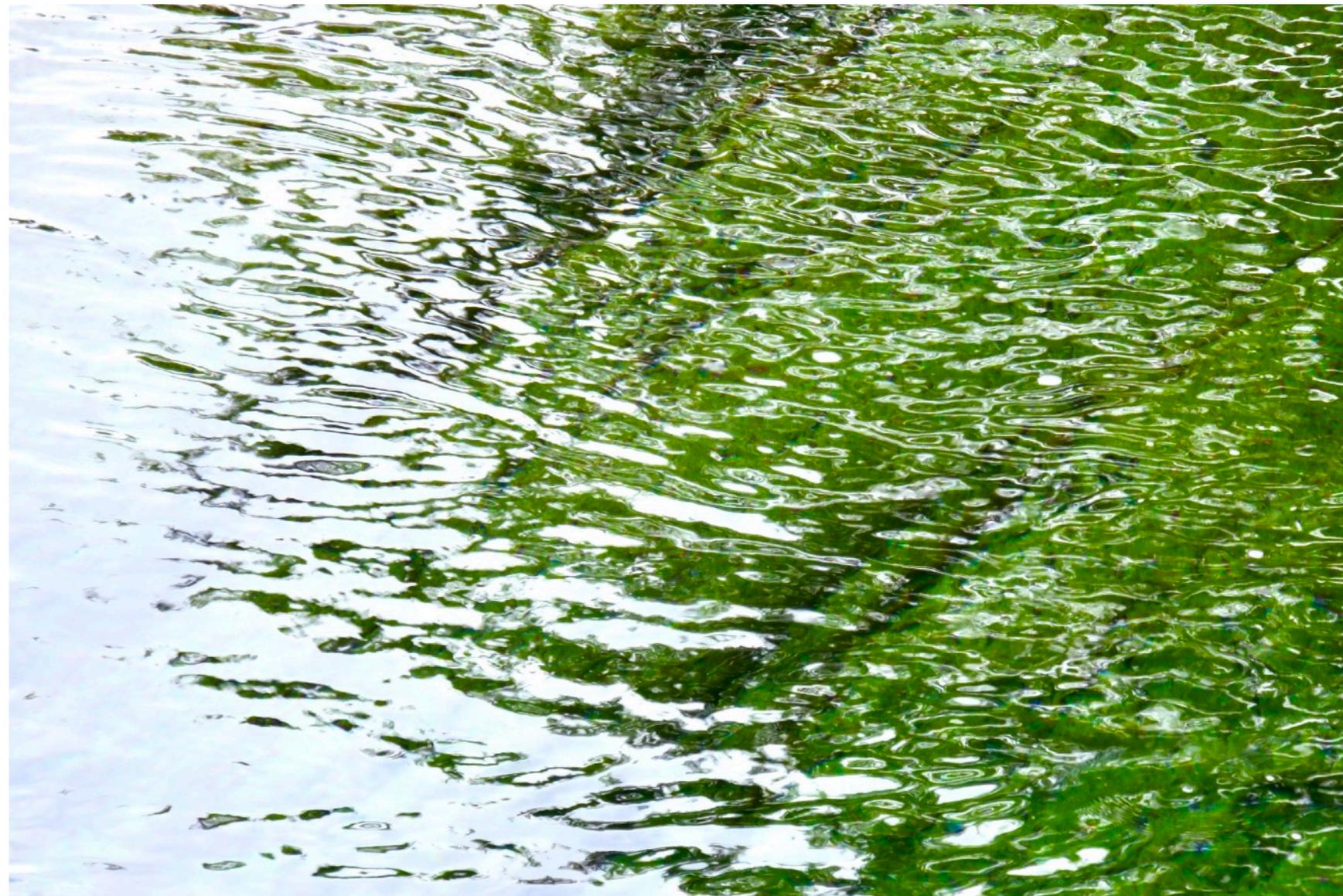
みずから考えるためには  
記憶という檻から  
自由にならなければならないように

忘れることは  
深みを流れる智慧の水を  
汲み出すこと

あらたに生まれてくるとき  
過去の記憶をなくしているのも  
あらたな生が  
恵みに充ちたものとなるため

忘れ忘れ忘れて  
ゆだねることだ

忘れ忘れ忘れても  
なにひとつ  
失われはしないのだから



\*愛媛県久万高原町・面河溪にて

世界は  
いつも  
あたらしい

なにかもが  
いま生まれている

時間は  
垂直の深みから  
生まれてくる

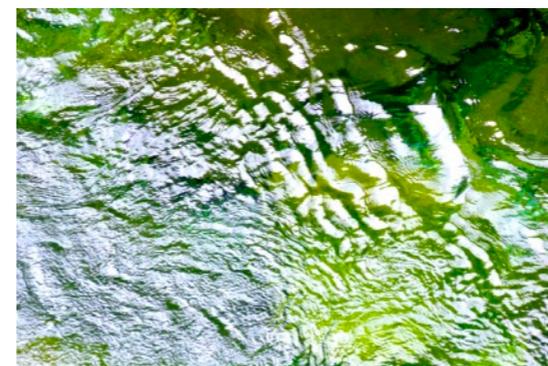
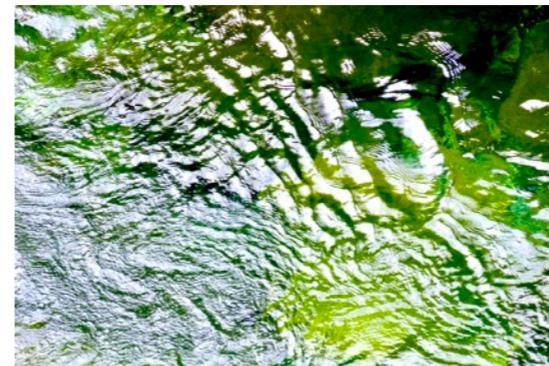
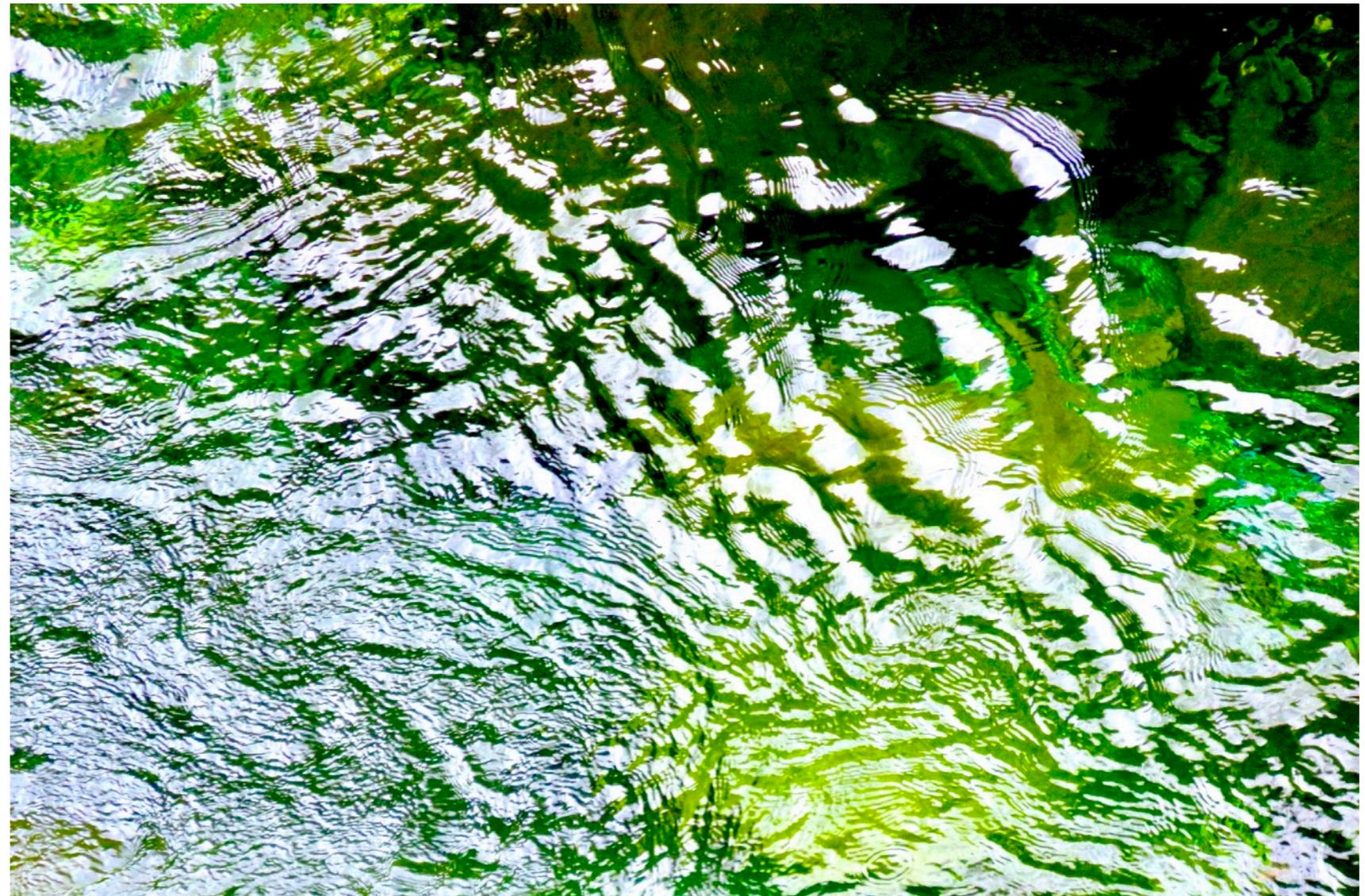
けれど世界を  
測ろうとすると  
ほんとうの時間は  
生まれなくなり  
自由をなくしてしまう

わたしは  
いつも  
あたらしい

わたしは  
時間を生きている

過去と未来の  
奴隷になると  
いつもあたらしいはずの時間を  
生きることができなくなる

自由をなくして



\*愛媛県久万高原町・面河溪にて

水とともに流れ  
花とともに咲き  
鳥とともに歌うとき

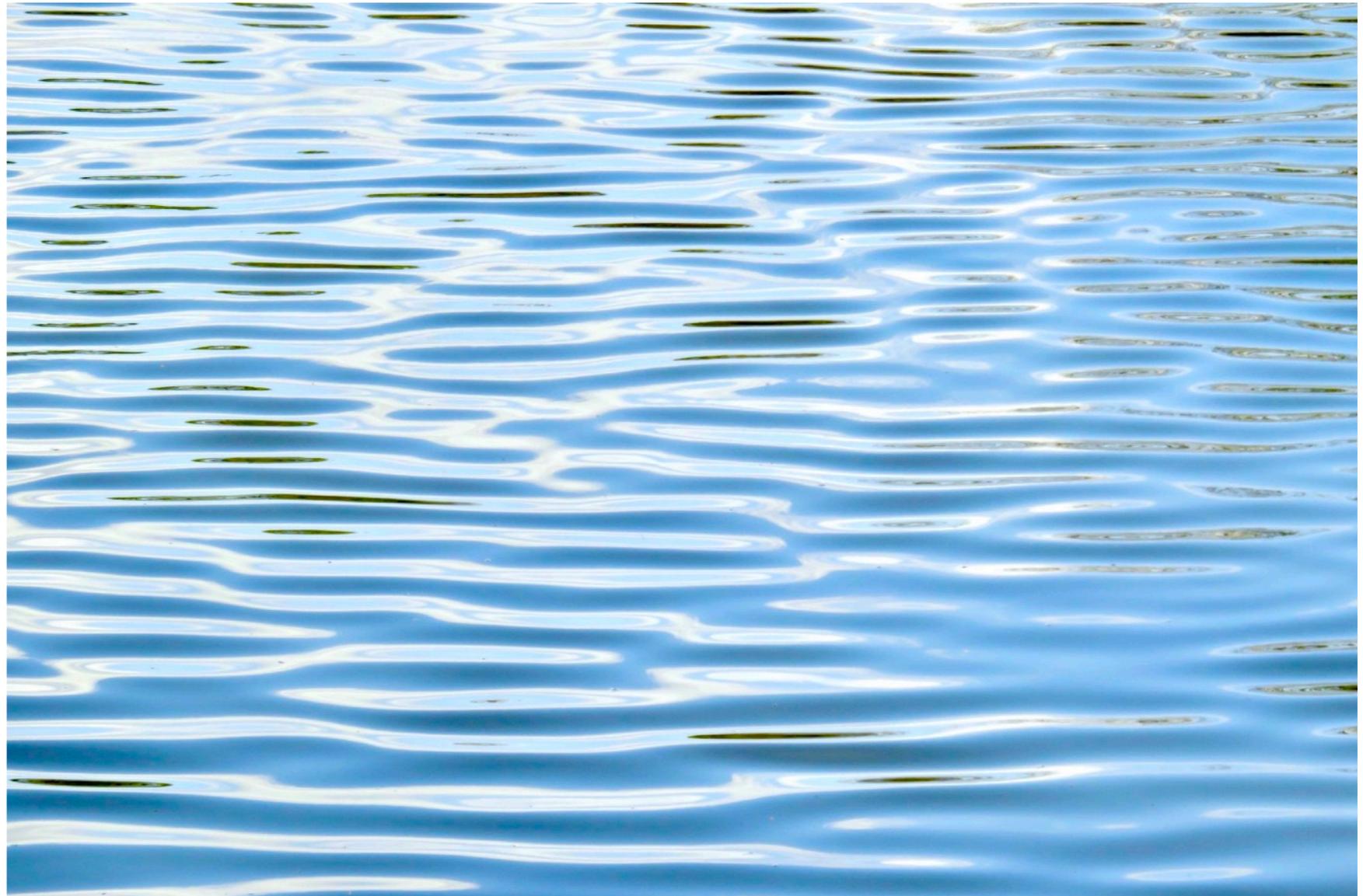
わたしは  
水であり  
花であり  
鳥である

わたしが  
せかいで  
なくなるのは  
せかいからはなれ  
それを指さすときだ

わたしのことばが  
せかいのことばで  
なくなるのは  
せかいを名づけ  
閉じこめてしまうときだ

わたしは  
わたしでありながらも  
せかいへと  
還っていかねばならない

わたしがひらかれることで  
せかいがともにひらかれるために



名なきまま  
生まれ  
名を得て  
名を生きる

名の  
体をあらわさぬときは  
名を変えるのもひとつ

名を売り  
名を得て  
名をあげ  
名に恥じぬよう  
名を残すのもまたひとつ

名に縛られ  
名に泣き  
また  
有名無実と化すならば  
名を捨てて実を取るのも  
またひとつ

いずれにせよ  
果てには  
名は失われる

魂は  
名なき者として  
されど  
名を超えた者として  
旅を続ける者なればなり



\*愛媛県総合運動公園にて

水の流れか  
空（そら）ゆく雲か

この世を  
生きる  
はかなさを

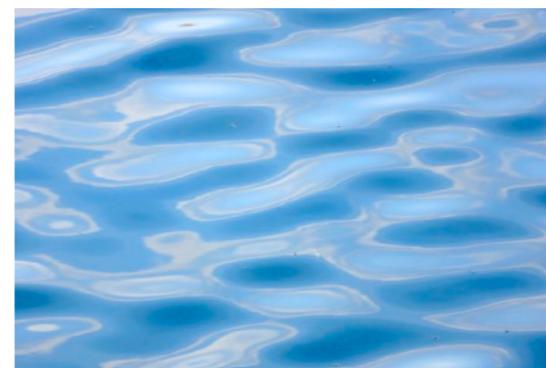
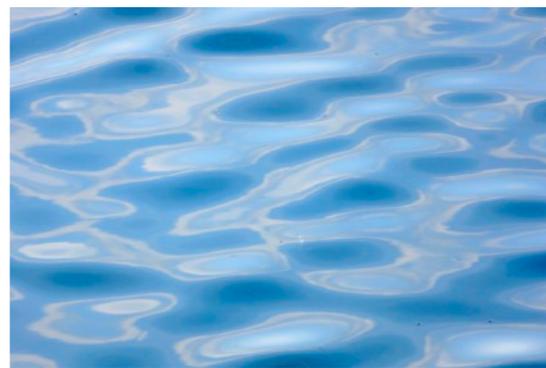
空（くう）と  
みたとして  
なんとしよう

空なる  
この世を  
味わえば

愛も  
情けも  
香りたつ

白だ  
黒だと  
野暮などやめて

遊んで  
生きて  
色となす



\*愛媛県総合運動公園にて

ある／いる  
といえるのは  
ない／いない  
といえるからだ

ない／いない  
といえるのは  
ある／いる  
といえるからだ

ある  
と  
ない

いないいないばあ

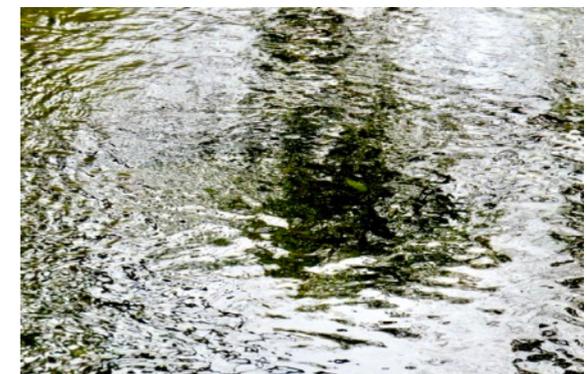
なる  
といえるのは  
ならない  
といえるからだ

ならない  
といえるのは  
なる  
といえるからだ

なる  
と  
ならない

なるようになり  
ならないようにはならない

ぐうぜんが  
ほんとうは  
ぐうぜんではないように



\*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

わたしは  
記憶である

見聞きし  
体験したこと  
すべてが  
わたしとなっている

わたしの記憶は  
このわたしを超えている

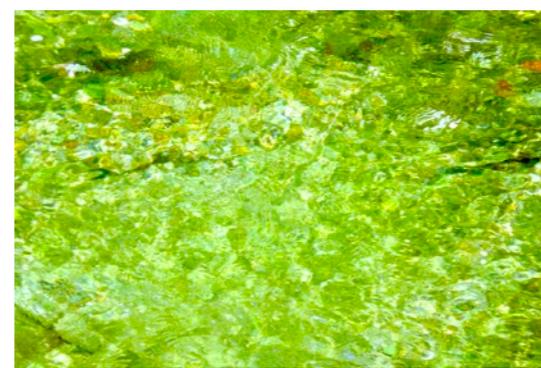
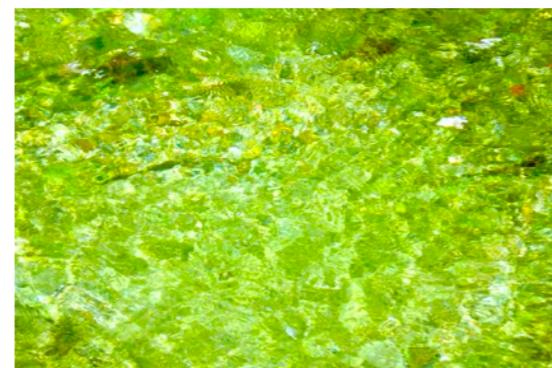
あるいは  
わたしとなるまえの  
わたしの記憶が  
重ね合わされながら  
わたしとなっている

記憶は  
決して失われないが  
忘れることはできる

忘れなければ  
生きられないことがあり  
思い出せないために  
生きづらくなることもある

死は  
記憶を妨げない  
生が  
ほんとうの記憶を  
妨げはしないように

わたしは  
変わらず  
変わってゆく  
更新されつづける  
記憶である



\*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

たとえ  
どんな大きな声で  
求められても  
どんな強い手で  
たしなめられても

白にも  
黒にも  
灰色にも  
染まることなく

冷たすぎも  
熱すぎもしないように  
ゆっくりと  
たしかな熱を加えながら

ひとから  
認められるためにでも  
あらかじめ決められた結果を  
求めるためにでもなく

じぶんという謎を  
しずかな足どりで  
味わってゆけますように



外へとひらかれる  
不安のために  
とじてしまうとき  
見えないでいるものは  
もっと見えなくなる

せかいの外へ  
わたしの外へ

そのときなにが  
見えてくるだろう

わからないでいる  
焦りのために  
わかりやすい答えだけを  
求めてしまうとき  
考えられないでいることは  
もっと考えられなくなる

わからないせかいへ  
わからないわたしへ

そこでなにを  
問うことができるだろう

未知へとむかう  
おそれのために  
過去へと  
回帰してしまうとき  
芽吹くはずの種は  
もう育つことができなくなる

未知なるせかいへ  
未知なるわたしへ

そこでなにが  
育てられていくだろう



\*愛媛県総合運動公園にて

だれもが  
なにかを  
信じて生きている

なにも信じないというひとでも  
信じないと信じているように

けれど  
なぜ信じているのか  
そう問われると  
わからなくなってしまうだろう

神を信じる  
というひと  
神について問われると  
ほんとうのところ  
神がわからなくなるように

おそらくひとは  
ヒヨコが最初に見たものを  
母親だと信じてついていくように

最初に  
あるいはあるときに  
信じざるをえなくなったものを  
強く信じて生きていくようになるのだ

おそらくそこに  
たしかな理由はない

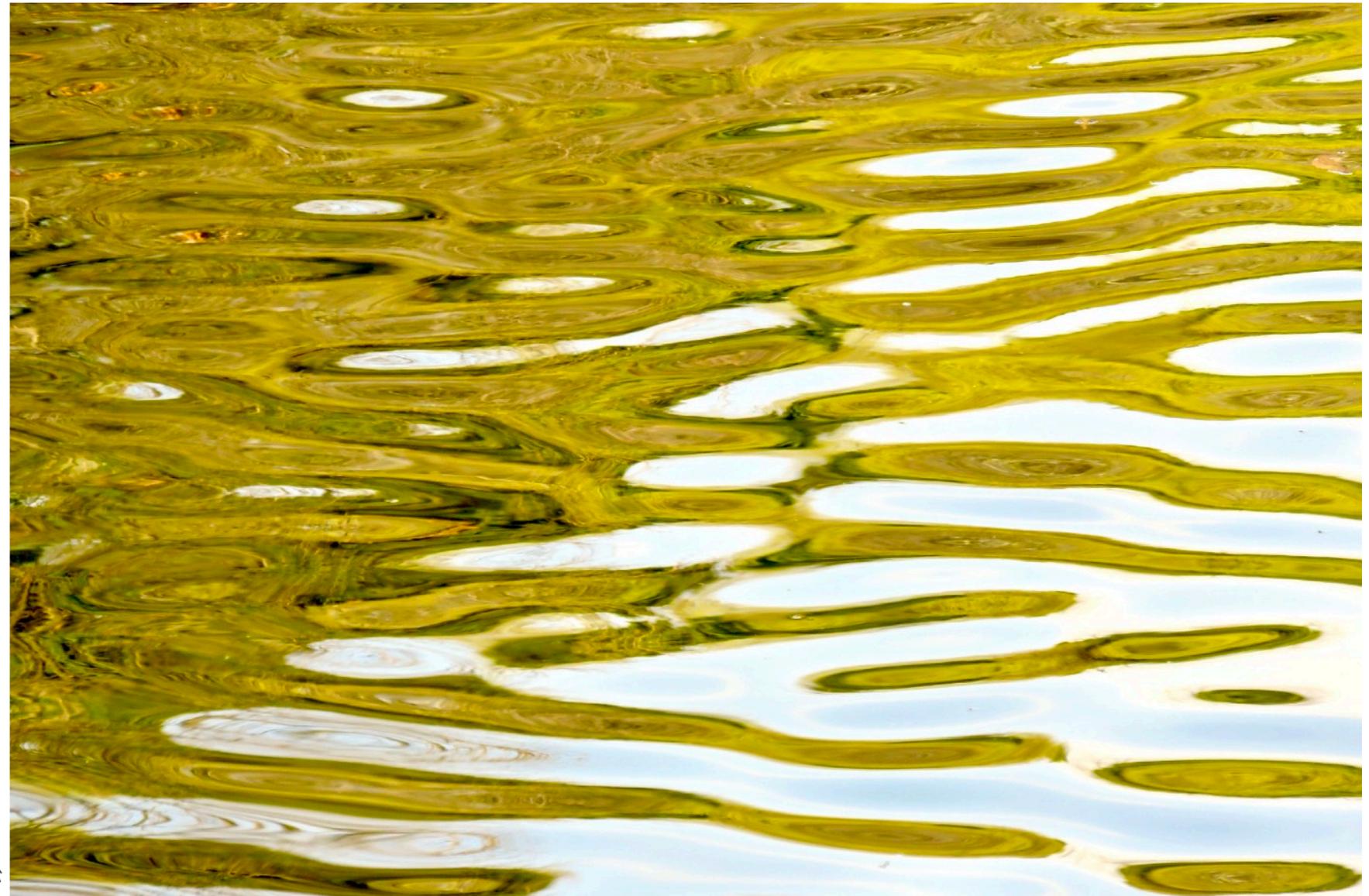
お金を信じて生きているひと  
なんども問われつづけていくと  
お金の向こうにある  
わけのわからないなにかを  
信じていることに気づいたりもするだろうが

そのわけのわからないなにかを  
問いつづけることを恐れるあまり  
それに近づかないようにする

だれもが  
なにかを  
信じて生きている

けれど  
それを変えることはむずかしい

信じているものが  
わからなくなること  
耐えられはしないだろうから



\*愛媛県総合運動公園にて

決められた  
意味に  
閉じ込められそうなときは  
意味の外に出る

決められた意味は  
AIで足りるから

意味の外で  
無意味に遊ぶ

決められた  
言葉に  
息苦しくなったときは  
言葉の外に出る

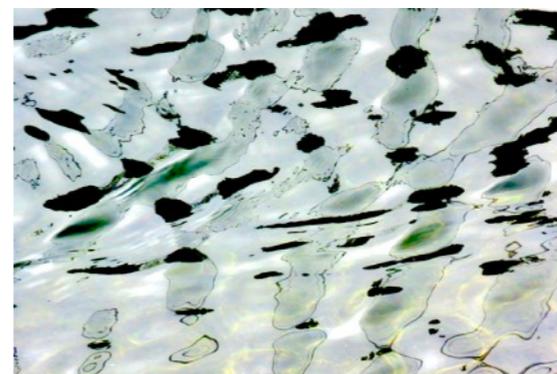
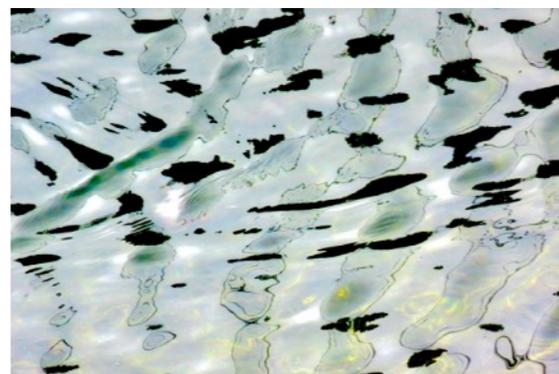
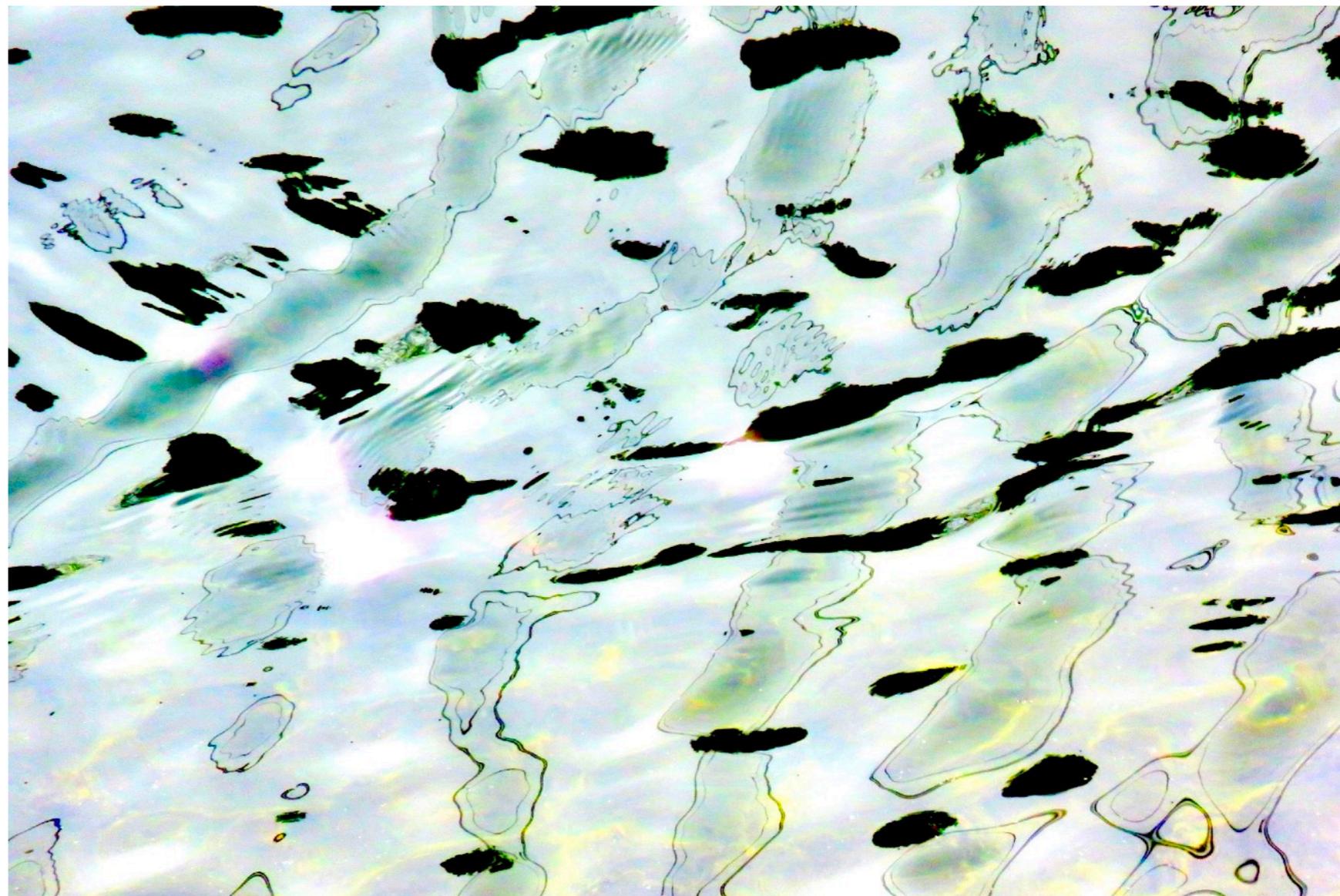
決められた言葉は  
辞書で足りるから

言葉の外で  
沈黙に遊ぶ

決められた  
善悪に  
押しつぶされそうなときは  
善悪の外に出る

決められた  
善悪は  
道徳で足りるから

道徳の外で  
外道に遊ぶ



\*愛媛県総合運動公園にて